玖珠創世の会
代表 神田のぶひろ
通信 Vol.1

玖珠町の「改革」が日本を動かす！

◎玖珠町が誕生して、66年…新たなまちづくりに舵を切る

『玖珠創世の会』発会式

日時：9月29日㈬　19：00～
場所：メルサンホール「町民ホール」
大字岩室24-1　TEL.0973-72-0601
皆様方のご出席をお待ちしております。

「協心橋」から玖珠川を臨む

○「玖珠町」の変遷

私たちの玖珠町は、今から66年前の昭和30年（1955）に「森町・玖珠町・北山田村・八幡村」が合併して誕生しました。（「昭和の大合併」と言われました。）

当時の人口は、**2万8,622人**。日本の「高度経済成長」がまさに始まらんとする時です。

JR久大本線を蒸気機関車が走り「豊後森機関庫」には、格納され整備を終えた「蒸気機関車」が何両も待機し出発を今か今かと待っていた時代です。200人以上もの「国鉄マン」が勤務していたと言います。

町には活気が溢れ、駅前には列車が着くたびに多くの乗客が降り立ち、商店街は賑わいを見せたのです。

○「時代の変化」を見据えたまちづくりへ

時代は、戦後復興を経て「高度経済成長」期へ。鉄道は「蒸気機関車」から「ディーゼル機関車」へ変わり、さらに「電化」されます。

「鉄道」と「バス」の時代から「マイカー社会」へと変わり、暮らしは豊かになり「国民生活」は便利になりました。

このように「高度経済成長」は、「大量生産・大量消費」をもたらし豊かさを実感させる社会を実現した半面、都会への「一極集中」を生み、人口構成の偏在を生じました。

今では、当たり前のように使っている「パソコン」や「携帯電話」は当時からは想像もできなかった「情報化時代」の到来をもたらしました。

このように時代の変化に合わせて、玖珠町も日々変化を続けています。

しかしこの「小さな変化」は曲者であり、一気に「大胆な変化」なら皆さんが気づきますが、「小さな変化」のために気づくのが遅れ「人口の流出」や「少子高齢化の進展」は、徐々に町の財政を蝕み住民が消え、「空き家」が発生し、「限界集落」が多数生まれ、この町の「人口」も毎年減り続け（平均250人強）、いまでは「人口」は**1万4,700人**。玖珠町誕生の際の半分に激減してしまいました。

町の商店街は、国が行った「大店法」の見直しにより、国道沿いを中心に「大型店舗」が進出して、町の小さな商店街は1軒、また1軒とお店をたたみ、櫛の歯が欠けたように「空き店舗」が生まれていきました。

なぜ、こんな風になってしまったのか。その原因は「国の施策」や「経済のグローバル化」、個人の「ライフスタイル」の変化、「男女共同参画社会」の増進、「社会構造」の変化などがあったことは否めません。

○スピード感を以て「政策」を推し進める「力」に

急速に進む「少子高齢化」「人口減少」、いったいこの町の将来はどうなっていくのだろうか・・・。

特に長く政治に携わり、地元を注視してお手伝いをしてきた私は、多くの皆様方からご相談や対応を求められ、この問題に答えを出すべく自らが立ち上がり、「処方箋」を見出していかなければ悔いが残るし、**この町の未来・将来に責任を持っていきたい**との思いに駆られました。

このように玖珠町が厳しい状況に至ったのは、町の行く末を「短期・中期・長期」にわたり検証・予測して、その都度問題点を整理して迅速な対処をして来なかったからです。

行政特有の「先延ばし政策」「時間稼ぎ」に大きな問題があるのです。

玖珠創世の会
代表　神田のぶひろ

「未来予測」は可能です！

困ったことは先延ばし…ではなく 今、一緒に考えましょう！

私は、町の未来に責任を持つ世代として、この町が「健全な財政」のもとに「町民が安心して暮らせる町」にできるよう、想定される範囲で、そして想定外のことに対しても少し考えてみることが今この時に大切ではないだろうかと思いました。「今、どうすべきか」、「今後、どうしていくべきか」を本気で考え、そのような「リーダーシップ」を持った人にこの町を託すとともに「この町の未来を創世」していかなければならない。次代を見据えた備えや体制づくりが急務となっているのです。

○人任せでは進まない、自らが責任を担う！

どんなに難しい問題や困難なことでも時間が過ぎれば解決ができなくても人は忘れ、その事案は風化していく、そしてまた新しい問題に直面していくので、何とかなっていくのですから世の中は不思議です。

人の生き方や行政も似たところがあるのです。

玖珠町の人口は、**10年後には「1万2,000人」、25年後には、「8,500人」**との人口推計が出ています。

そうなった時の町の様子はどうなっているのか…。20年、25年、30年後なんて誰も本気で考えていませんし考えたくない、誰かが助けてくれる、大丈夫だと人任せではないでしょうか。

○今後想定される問題に立ち向かう

地球温暖化が叫ばれ毎年起こる「豪雨災害」、やがて訪れるかもしれない「食糧不足」や「エネルギー不足」、「気象変動」や次の「新型ウイルス（変異種）」への備えを行い、町民の生活や暮らしや収入をどう確保し、安全で安心な町をどう作っていくのか…。

国内外を見渡してみても世の中は、ますます不確実・不安定化している現状の中で、国も県も人口減少社会を見据えた町づくりを進め、市町村にも「人事・財政面」でさらなる「統合・合理化」を求めています。

今後想定される問題 -1

「自然災害」危険除去への備えを

今後想定される「南海トラフ地震」や想定外の「自然災害」への備えも必要です。例えば「メルヘン大橋」が大量の流木でせき止められたら、帆足地区の昭和町や春日町への浸水被害は甚大なものになります。

想定内・想定外の被害への備えが果たしてできているのか危惧されるところです。

もし、九重町の「硫黄山」が噴火したら玖珠町にどんな影響や被害が出るのか。

常に想定外への**備えがあってこそ対応が可能となる**のです。

今後想定される問題 -2

「人口減少」と「超高齢化社会」を生き抜く力を

これ以上急激な「人口減少」を避けなければ、サービス産業企業は事業を統合し生き残りを図るでしょう。それでも採算ベースに乗らなければ、撤退をしてしまいます。

この町に働く場所がなければ若人や中堅層は、この町を離れます。

人口減は、商店街の店舗の棄損を加速させ、公的機関も需要と供給のアンバランスが著しくなると閉鎖の憂き目となります。

お考え下さい！。玖珠町から郵便局や銀行や病院・学校が消えていく。この町に暮らす私たちが、他の町では受けられる公的・行政・金融等の各種サービスが享受できず不便を強いられ、この町での暮らしを諦めてしまい、子どもや孫たちに「自信」と「責任」を持ってこの町に住み続けようとは言えなくなる、このような事態を回避したい。

未来を担う子どもたちが高校卒業後の進路選択においてこの町で暮らそう、高等教育機関に進んでも玖珠町に帰りここで就職しよう、生活の場は玖珠町だ！として、彼ら彼女たちが玖珠町の良さを発信・PRしてくれるような**「住みたくなる 住み続けたいまち 玖珠町」**を我々は創り出さなければなりません。

○「税収」と「雇用」を創り出す！

玖珠町もこの厳しい時代の厳しい現実を直視し、自らの身は自らで守るとの気概のもとに「税収を創り出す」努力を行い（基幹3税－所得税・法人税・消費税）、国からは「地方交付税」を得て、歳入の安定化を図ることが求められます。

また、**「ふるさと納税」にも力を入れ「玖珠町の良さ」をアピール**して、自らが税源を生み出していかなければなりません。

さらには、**「企業誘致」を積極的に推進し、「雇用」と「税収」を生み出す**努力を行います。

玖珠町には「陸上自衛隊」が所在しており、日本の安全保障の一翼を担っている自負と隊員への感謝の気持ちを込めるとともに、町の施策推進における財政面で応分の支援・補助金を得ており、この支援は町の財政にも資するものです。

さらに、道路・水道・電気などの「ライフライン」の整備、「公共施設（庁舎・図書館・公民館）」、「学校施設」などの社会インフラの整備についても「スクラップ＆ビルド」を行い、適宜適切な予算投入が必要となります。

そして、これらの必要なインフラを維持するためにも**現状の「人口規模」を維持し、税収を確保し、国の各種補助金を得るべき、リーダー（人脈・地脈・気脈）**の英知と汗と努力が必要とされているのです。

これらの維持・整備も「自主財源」と「地方交付税」、「各種補助金」が毎年、手当てされることを前提として述べていますが、もし「地方交付税」や「各種補助金」が減らされたり、自衛隊からの各種施策への財政支援が途絶えてしまったら、玖珠町は大変な事態となります。

※（「コロナ禍」も加わり国が抱える債務は、1,000兆円を超える中で、毎年の予算が確保できていくのか不安は尽きません）

○急激な人口減少を防ぎ、「教育の充実」と「女性と子どもが主役になれる町」に

この解決の「キーパーソン」は、20代～39歳の女性であるのです。

その「鍵」を握る女性の働き方を支援し、町の身近なところに働く場所を作り出し、女性が仕事と出産と子育てを両立できるようにすべき時代を創り出さなければなりません。

晩婚化や晩産化を避け、現在第一子出産年齢である30.3歳を20代後半へと結婚割合を高めることも考えなければなりません。

このように**「女性の笑顔が輝く街づくり」**を推進し**「女性と子どもが主役になれる町」を目指し、教育の充実と学力の向上に力を注ぎます。**

○「優先順位」をつけて、「政策」の取捨選択を！

いま玖珠町にとって何が一番必要で、何を町民が求めているのかを把握すること、時には施策の「取捨選択」が必要です。

用意できる「予算や財源」や「マンパワー（職員数）」にも自ずと限界があるのです。

そして「南海トラフ地震」への対応では、玖珠町に直接的な被害が出なくても佐伯市・津久見市・臼杵市・大分市などの沿海部都市が被災し、被災者が出た場合に内陸部に位置する玖珠町がどう受け入れて、何人規模で、何か所で受け入れ可能なのか。

「自治委員会」や「地域コミュニティ」で、事前に想定し協議して訓練を行っていくことが大切です。

○新しい「リーダーシップ像」を創り出し、「政策」を推し進める！

町の未来に責任を担い、皆さんと**「未来の玖珠町を創世して人材を生み出していく」**覚悟を私は明確にし**『玖珠創世の会』を組織**して訴え続けています。

「今この時を大切に」し将来に禍根を残さないようにしっかりとした「政策」を持ち合わせ、町民の皆さんの声をきちんと聴きながら作り上げて、自らがしっかりと判断して、「希望」と「展望」を見出していく新しい「リーダーシップ像」を求めて、これからも皆さんとふれあい、要望・意見をお聞きし**「確かな未来を創り出す」**、その役割を担いたいとの思いを強くしています。